

障害を持つ人も持たない人もごく普通に生活できる社会の実現を

障害を持ちながらも自立と納得のいく社会参加をめざす
ふれあいセンター（沖縄県）

食料品や日用雑貨品が積まれているビルの一室で障害者たちが真剣な面もちで働いている。沖縄県那覇市にある「ふれあいセンター」の作業所「ふれあい工場」である。ここでは精神障害



無農薬野菜、牛乳、味噌、パンなどの販売や名刺印刷業務などを行っている「ふれあい工場」



新所長の大島さん(右)と創設者の永山さん

者たちが作業活動をしながら社会参加をめざしている。センターは95年の設立以来の名称を、今年から変更した。同時に所長として障害者を支援してきた永山盛秀さんが相談員に退き、大島アノさんが新所長に就任した。

「以前の名称『障害者のための地域生活支援・就労援助のふれあいセンター』は支援・援助する側からつけられたものですが、新しい名称は障害者自身の主体性を前面に掲げている。まる6年経って、私たちの組織もそこまで主張できるようになったということです」と、永山さんは名称変更の意味を強調する。5年前、父親に連れられてきたという大島さんも、心に障害を持つ人である。「障害を無理に治して社会参加しようというのではなく、障害があってもいい、障害を持ちながらも精神的にも経済的にも自立していけばいい」というのが永山さんたちの新たなコンセプトなのだ。

「ふれあい工場」では、食料品の販売



週1回行われている「つどい」。自己表現力の向上を目的とするため議論はせず、意見交換をしながら相互理解を深めていく

や名刺印刷業務、警備や清掃事業などを行っている。弁当のほかに他の企業があまりやらないトイレトペーパーの販売・配達も軌道に乗ってきた。永山さんにいわせれば「すき間産業」ということになるが、これらはセンター

が掲げる経済的自立への挑戦である。そしてもう一つの重要な活動に「つどい」がある。毎週1回、テーマを決めて自由に語り合ったり、自己表現のための2分間のスピーチなどを行う意見交流の集まりである。働きたくても面接で不採用になる、採用されても1〜2週間やめてしまつ。これは対人関係が苦手という障害者たちの表現力のなさが原因であるとの考えから、6年前にはじまった。現在では県内だけでも20か所で行われていて、岡山県や長野県などにも広がっている。交流・支援といつかたちで大島さんたちメンバが親善大使として各地に出かけていって、普及活動も行っている。「つどい」は障害者たちの精神的な自立への訓練の場であるとともに、「心の障害をあえて隠さない生き方で積極的に社会にアピールしていく」というセンターの考え方の実践の場でもある。

ファイザープログラム

「心とからだのヘルスケアに関する市民活動支援」

2001年度 募集要項

1. 募集期間:2001年7月2日～8月13日
2. 助成金:1件あたり300万円を上限とし、本年度は15件程度の助成を予定しています
3. 助成の期間:2002年1月1日～12月31日(1年間)とします
4. 対象となる分野:特に次のようなプロジェクトを重視します。
 - 1)成長過程にある人たちの心身のすこやかな発達を支援する活動
おもに10代が抱える問題を克服し生きる喜びをもつことを助けるもの
 - 2)社会的な受け皿がないために保健・医療を受けられない人たちの心身の保健・医療を支援する活動
外国人、路上生活者、PTSD(心的外傷後ストレス障害)などの人々を対象とするもの
 - 3)障害をもつ人や療養にある人たちの充実した生き方を支援する活動
身体障害、知的障害、精神障害などの人たち、難病、長期療養にある人たちの社会生活を豊かにするもの
5. 問い合わせ先:
ファイザー製薬株式会社 企業文化室
03-3344-7524
応募要項はホームページ
<http://www.pfizer.co.jp> からダウンロードできます